

## 英語調査に関する論点(案)

※ 英語調査については、制約条件を踏まえつつ、目的を明確にしながら全国的な調査が可能となる方向で具体的な検討を絞って検討を行うこととする。

1 英語調査の目的

- ・国、都道府県、市町村における英語教育改善のためのPDCAサイクルを構築する
- ・生徒の4技能における英語力を把握し、その分析結果を活用して各学校における指導・評価の改善を促すとともに、生徒の英語力を着実に向上させる 等

2 期待される効果

- ・英語4技能の妥当性・信頼性のある測定
- ・学校での授業指導・学習評価や生徒の学習状況の改善・充実に活用
- ・国、都道府県、市町村における英語教育改善のための施策に活用
- ・教員がスピーキング等の採点に関わることを通じた教員の指導・評価の改善
- ・学校のグローバル化推進における活用  
(例えば、留学、ICT活用による海外の学校との交流等、英語を用いた活動経験などの把握・分析) 等

3 検討課題(例)

平成31年度実施を目指して、次のような論点について検討

(1)対象学年:中学校第3学年

(2)出題範囲・内容

- ・学習指導要領に基づく問題設計
- ・義務教育である中学校段階における出題範囲や内容の考え方
- ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各技能及び技能統合型の問題を出題  
特に課題とされている「書くこと」や即興での質疑応答など「話すこと」の具体的な問題イメージ(及び、その問題を採点するために必要な実施方法・体制)
- ・中学校段階に適した技能統合型の問題内容の検討(例えば、与えられた情報に対する自分の考えや気持ちなどを30語程度で書いたり話したりするなど)
- ・次期学習指導要領(28年度改訂、中学校は33年度全面実施を目的)との関係

・当面、問題の量や難易度(特にスピーキングとライティング)は、全国的な調査の実施可能性を踏まえ検討

・調査問題の妥当性、信頼性等

※妥当性: 調査問題が把握したい能力を適切に測定しているか。

※信頼性: 明確な評価規準・方法などが提示されるなど、精確性が担保されているか。

### (3)実施時期・期間

・国語・数学と同様、中学3年生の4月を起点とし、別の日程での実施について検討が必要(特に、スピーキング)

・中学校の行事日程などへの配慮

・どの程度の期間を想定するか

### (4)実施方法・体制(特に、スピーキング、ライティングの試験、評価方法 等)

・民間の試験団体の活用を検討(国の一定の方向性を踏まえた問題作成・採点・実施運営等)。

・スピーキング、ライティングについて、教員の指導・評価の改善の観点から、教員による試験実施・採点も検討。

・スピーキング、ライティングの採点体制の在り方に関する検討(例えば、評価に関する研修、採点に必要な人数、他校との連携など)

・採点者の研修の在り方に関する検討(例えば、ICT活用による研修・研修後のスキルチェック機能など)

・スピーキング・テストについては、インタビュー形式や生徒同士のペア・パフォーマンスを見る形式など、実施方法についても体制と合わせて検討

### (5)実施頻度 (複数年に一度実施)

### (6)調査結果の分析・検証

・経年変化の分析や質問紙の分析(施策の検証、生徒の経済的環境と英語力の分析も含む)

・IRT<sup>1</sup>をベースとした分析

・CEFR<sup>2</sup>等の世界基準の参照などによる生徒の英語力の到達度を測るものだけでなく、生徒

<sup>1</sup> Item Response Theory(項目反応理論)の略称。この理論を用いることによって複数回受検する場合に回ごとの試験問題の難易度の差による不公平を排除することが可能となる。なお、その導入のためには、事前に難易度推定のために全ての問題について予備調査することや多量に問題をストックすることが必要。(例 TOEFL、医療系大学間共用試験等)

<sup>2</sup> CEFR(外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠)は、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力評価のために、透明性が高く分かりやすい、包括的な基盤を提供するものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会(Council of Europe)が発表した。欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等・

の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果・課題を検証し、改善に役立てる方法等について検討(現在の全国学力・学習状況調査分析・検証の在り方を参考にする)

(7) 調査結果の取扱い(結果公表を含む)

・調査結果の提供方法の在り方

英語の特色を踏まえ、CEFRとの関係を参照できるような結果の提示を検討するか

等

#### 4 その他

- ・政府の目標設定(第2期教育振興基本計画)、学習指導要領との関係性、CEFRとの関係整理が必要
- ・高等学校基礎学力テスト(仮称)の検討状況を踏まえた整理
- ・既に都道府県が行っている英語調査との関係整理

(参考)

全国的な学力調査 に関する専門家会議（第1回）における英語に関する主なご意見

平成27年6月24日

- 英語4技能調査の検討の範囲について、スピーキング、ライティングが入ってくると、いわゆるパフォーマンス・アセスメント系の評価であり、かなりコストと人的パワーがかかる。悉皆でやるとなると、非常に難しい問題が出てくるが、評点者の質の課題も含めて議論するということでよいのか。
- 民間の資格・検定団体の試験を利用するという概念も入ってきているが、それとの整合性、切り分けというのはどうなるのか。それを利用して全国的な学力調査をするのか、それとは別になされるのか。
- 英語の4技能を調査することは賛成だが、実際、複数年に1回という形でやろうとしても、今のスタイルからすると、3年に一度実施するような形でしか対応は難しいのではないか。そのような運用上の細かな点についても、今後検討すべき事項がある。
- 今後、英語が入ってくることは良いことだと思うが、必要な科目が増えるだけ、テストの数を増やしていくというのは大変な話である。そのため、ご意見があったように汎用的な能力を測る問題など、分野、科目を横断したような形でのテスト、つまり国語、数学、英語というのではなく、それらを融合した総合科目のような形でのテストをして、その中で、もし観点として見るのであれば、各科目からの観点、見方というような形でのテストの仕方、テスト問題作成ということもあって良いと思っている。
- 英語の調査についても、各技能が想定より伸びていないという結果が出た時に、なぜ伸びていないのか、それらの背景を調べ、変えていかない限りは、結果の向上にはつながらないのではないか。

# 平成27年度 英語力調査（中学3年生）の概要

## 1 調査の目的

- 中学3年生を対象に、英語の4技能（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）がバランスよく育成されているかという観点から、生徒の英語力を測定し、調査結果を学校での指導や生徒の学習状況の改善・充実に活用。

〈参考〉

第2期教育振興基本計画（平成25～29年度）に、グローバル人材の育成に向けた取組として、民間の資格・検定試験団体と連携した生徒の英語力の把握・検証による戦略的な英語教育改善の取組支援を提言。

また、成果指標として、中学3年生、高校3年生の英語力の目標を設定。

\* 第2期教育振興基本計画（平成25年～29年度）における成果指標

① 国際共通語としての英語力の向上

・ 学習指導要領に基づき達成される英語力の目標（中学校卒業段階：英検3級程度以上、高等学校卒業段階：英検準2級程度～2級程度以上）を達成した中高校生の割合50%

## 2 調査の内容・対象

- 全国の中学3年生約6万人（国公立約600校）の英語力を調査
  - ・ 学習指導要領に基づき、全員を対象に3技能（聞くこと、読むこと、書くこと）試験を実施。
  - ・ 「話すこと」は約2万人を調査（1校あたり1クラスを対象）。
- 生徒の英語学習状況や英語担当教員の指導状況を把握・分析(質問紙調査)
  - ・ 受験した生徒：英語学習に関する関心・意欲や授業内外における学習状況
  - ・ 調査実施対象校の英語担当教員：授業における指導状況 等
- 学校の取組事例
  - ・ 調査結果において特徴が見られた学校における取組内容の調査
- 試験実施時期：平成27年6月末～7月  
※ 10～11月頃 生徒個表返却、3月末を目途に分析結果とりまとめ・公表

## 3 調査の特徴

- 国による全国無作為抽出で行う大規模な4技能型試験のフィージビリティ調査。英語教育の有識者により、①調査結果の分析、②結果を活用した改善に向けた取組の推進方策を検討。
- 現行学習指導要領で学んだ生徒の調査を実施。来年度も引き続き実施し経年比較を行う予定。
- 世界標準となっているCEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1を中心にレベルを測定できるように設計。（別紙参照）
- 今後、英語の全国的な学力調査の検討において活用。

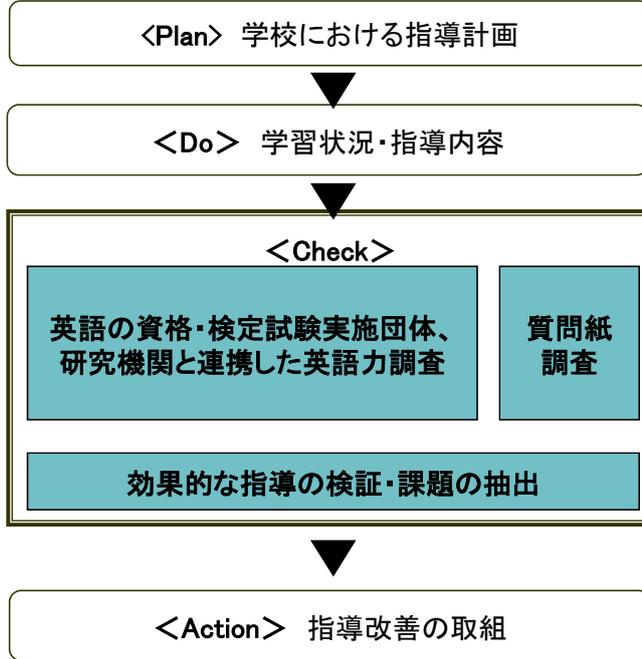
## 英語教育の在り方に関する有識者会議報告(H26. 9. 26)

生徒の英語力を把握し、きめの細かな指導の改善・充実や生徒の学習意欲の向上につなげるため、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において掲げられている英語力の目標(学習指導要領に沿って設定される目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度から2級程度以上)を達成した中・高生の割合50%)から、高等学校段階の生徒の特性・進路等に応じた英語力、例えば、高等学校卒業段階で、英検2から準1級、TOEFL iBT60点程度等以上を設定し、生徒の英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

### 【指導改善における活用のイメージ】

英語の資格・検定試験を活用し、生徒の英語力を把握・分析・検証し、教員の指導改善へ活用。(平成26年度に高校3年生を対象に実施したフィージビリティ調査を基に実施)。また、英語の資格・検定試験の活用促進に必要なデータの分析・研究も併せて行う。

- 生徒の英語力や学習状況について把握・分析を行い、それらの結果を指導改善に活用
- 第2期教育振興基本計画の成果指標である英語力を4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)にわたって測定
- 高等学校に加え、新たに中学校も対象に追加



## (参考)生徒の英語力に関する目標について

### ◆ 第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)(抜粋)

#### 成果目標5(社会全体の变化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力※を備え、社会全体の变化や新たな価値を主導・創造するような人材、社会の各分野を牽引するリーダー、グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材、とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上、海外留学者数の飛躍的な増加、世界水準の教育研究拠点の倍増などを目指す。

※能力の例:国際交渉できる豊かな語学力・コミュニケーション能力や主体性、チャレンジ精神、異文化理解、日本人としてのアイデンティティ、創造性など

#### 【成果指標】

<グローバル人材関係>

- ①国際共通語としての英語力の向上
  - ・学習指導要領に基づき達成される**英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高生生の割合50%**
- ②英語教員に求められる英語力の目標(英検準1級、TOEFL iBT80点、TOEIC730点程度以上)を達成した英語教員の割合(中学校:50%、高等学校:75%)

### ◆ 今後の英語教育の改善・充実方策について 報告

(H26年9月26日 英語教育の在り方に関する有識者会議)(抜粋)

生徒の英語力の目標については、「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)において、中学校卒業段階で英検3級程度以上、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上を達成した中高生の割合を50%とすることとされている。この実現に向けて取り組むとともに、高等学校卒業時に、生涯にわたり「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を積極的に使えるようになる英語力を身に付けることを目指す。

あわせて、**生徒の英語力の目標を設定し、調査による把握・分析を行い、きめ細かな指導改善・充実、生徒の学習意欲の向上につなげる。**これまでに設定されている英語力の目標から、高校生の特性・進路等に応じて、高等学校卒業段階で、例えば英検2級から準1級、TOEFL iBT60点前後以上等を設定し、生徒の多様な英語力の把握・分析・改善を行うことが必要。

# 平成27年度 英語教育改善のための英語力調査スケジュール

## 【目的】

全国で無作為に抽出した国公立中学3年生約6万人(約600校)を対象に、新学習指導要領の着実な実施に向け、英語に関する4技能(聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと)がバランスよく育成されているかという観点から、教員の指導改善に活用できるよう、生徒の英語力や学習状況を把握・分析する。

※フィージビリティ調査として実施

## 【スケジュール】

4月下旬	○教育委員会等への事業説明会(教育委員会から実施校へ依頼・説明)
5月初旬～	○第1回検討会 ・分析方針 ・試験問題、質問紙(案)等
6月29日 ～7月31日	○各学校において調査実施
9～12月	○生徒個票返却 ○第2回検討会
	<p>調査結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の英語力の分布</li><li>・質問紙の結果とスコアのカロス集計</li><li>・結果を活用した指導改善に向けた取組の在り方 等</li></ul>
3月	○第3回検討会 ○調査結果報告書とりまとめ・公表

## 「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」について

平成27年5月1日  
初等中等教育局長決定

### ■ 設置の趣旨

平成27年度「英語教育改善のための英語力調査事業」を活用して、生徒の英語力の現状等を検証するとともに、調査結果に関する分析及びその活用の推進のための方策等について検討を行う「英語教育改善のための英語力調査の分析・活用に関する検討委員会」を設置する。

### ■ 取扱事項

- (1) 生徒の英語力の現状把握及び調査結果の分析
- (2) 調査結果を活用した改善に向けた取組の推進方策の検討
- (3) その他

### ■ 委員名簿 (五十音順) ○主査

安間 一雄	獨協大学国際教養学部言語文化学科 教授
岡部 憲治	工学院大学附属中学校・高等学校 教諭
竹内 理	関西大学外国語学部外国語学科 教授
根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
○松本 茂	立教大学グローバル教育センター長
森 博英	東京女子大学現代教養学部人間科学科 教授
渡部 良典	上智大学言語科学研究科 教授

文部科学省においては、次の関係官が担当。

平木 裕 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官  
(兼) 国際教育課外国語教育推進室教科調査官

## 【調査問題の構成】

- 「読むこと」：多肢選択式・3パート構成・28問（約32分）
  - 「聞くこと」：多肢選択式・4パート構成・32問（約18分）
  - 「書くこと」：自由記述式・2パート構成・2問（約25分）
  - 「話すこと」：音読、即興での質疑応答、ある程度準備した上での意見陳述  
 について評価基準を設け、教員が面接試験を（約10分）
- } 計 2 単位  
 } 約 10 分

	Reading 読むこと	Listening 聞くこと	Writing 書くこと	Speaking 話すこと
測定する力	<b>実際の言語使用場面を前提とした英語コミュニケーション能力</b> （「知識・技能」の習得だけでなく、それらを活用して思考・判断・表現する総合的な力）			
問題構成	<b>語彙・語法問題 10問</b> <small>（短文の中で、文脈を理解するとともに、文法的に、また語彙選択上最も適切な表現を正確に判断できる力）</small> ※A1相当	<b>イラスト説明問題 8問</b> <small>（視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した短文レベルの英文を正しく聞き分ける力）</small> ※A1相当	<b>空所補充英作文問題 1問</b> <small>（対話中の空所に当てはまる応答を文脈から判断し、適切な英文を用いて表現する力）</small> ※A1相当	<b>音読問題 1問</b> <small>（適切な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話す力）</small> ※A1～A2相当
	<b>情報検索問題 8問</b> <small>（与えられた英文の題材について、短時間で必要な情報を引き出す力）</small> ※A1相当	<b>会話応答問題 8問</b> <small>（不意の問いかけに回答する適当な英文を素早く判断し、処理できる力）</small> ※A1相当	<b>意見展開問題 1問</b> <small>（身近な事柄について、与えられたテーマに対して個人の経験や他の事例を元に意見と理由を述べる力）</small> ※A1～A2相当	<b>質疑応答問題 1問</b> <small>（試験官からの問いかけに応じて生徒自身の経験や考えを適切に述べる力）</small> ※A1～A2相当
	<b>概要把握問題2問</b> <small>（与えられた英文の題材について、短時間で全体の概要を理解する力）</small> ※A1相当	<b>課題解決問題 8問</b> <small>（日本語で事前に与えられる状況設定及び視覚情報（イラスト）と音声情報から、その場で求められている課題（タスク）を解決する力）</small> ※A1相当		<b>意見陳述問題 1問</b> <small>（与えられた話題について、事実と自分の意見とを区別して、論理的に説明する力）</small> ※A1～A2相当
	<b>要点理解問題 8問</b> <small>（まとまった量の英文について、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点を理解し、必要な情報を読み取る力）</small> ※A1～A2相当	<b>要点理解問題 8問</b> <small>（英文音声の中から、事前に与えられる英語の質問に答えるために必要な情報を選択し、求められている解答を導くために適切な判断をする力）</small> ※A1～A2相当		

## 【生徒・学校・教員に対する質問紙調査の構成（約15分）】

項目	内容
生徒質問紙	<input type="checkbox"/> 英語そのものに関する意識 <input type="checkbox"/> 英語使用に関する経験 <input type="checkbox"/> 英語に関する試験の受験経験 <input type="checkbox"/> 英語の学習方法・内容や学習時間について <input type="checkbox"/> 学校の英語の授業について
学校質問紙	<input type="checkbox"/> 教員単位での指導の実態について
教員質問紙	<input type="checkbox"/> 学校組織での指導の実態について

生徒への質問	教員への質問	学校への質問
<input type="checkbox"/> 英語に関する意識 ・英語学習への関心 ・英語を身につけ何をしたいか [国際社会で活躍、大学で専門的に学ぶ、海外留学、日常会話、大学入試、他] <input type="checkbox"/> 英語使用の経験 ・高校生になってから経験したこと [イングリッシュキャンプ、スピーチ大会、プレゼンテーション、留学、ホームステイなど] <input type="checkbox"/> 英語の資格・検定試験の受験経験 <input type="checkbox"/> 英語の学習時間・手段 ・予習・復習時間、PC、タブレットなど機器 <input type="checkbox"/> 4技能の活動状況 <input type="checkbox"/> 生徒同士で意見交換などを行っていたか	<input type="checkbox"/> 英語の授業での言語活動や指導 ・スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッションなど <input type="checkbox"/> 英語の授業での英語の使用状況 <input type="checkbox"/> 生徒が英語の授業でコミュニケーション活動を行っている割合 <input type="checkbox"/> 校内外の研修会への参加状況 <input type="checkbox"/> 自分の英語力を向上させるための取組 ・英字新聞を読む、テレビの英語講座、語学学校など <input type="checkbox"/> 英語の資格・検定試験の受験状況	<input type="checkbox"/> 研修の実施状況 ・模擬授業、授業相互参観、事例研究など <input type="checkbox"/> 学校外研修の活用状況 <input type="checkbox"/> 言語活動に重点を置いた指導計画作成状況

## 問題の特徴 ～Reading～

※取扱注意

R

Part A  
語彙・語法

英文の空所に入る最も適当な語を選択

CEFR:A1

1 I don't have a \_\_\_\_\_. Can I borrow yours to take some pictures?

- [A] map  
[B] camera  
[C] pencil  
[D] notebook

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

正答

B

## 出題の趣旨

単文レベルの英文の中で、文脈的なつながりを理解し、かつ文法的に、また語い選択上最も適切な表現を正確に判断できる力を測定する問題。

## 問題の特徴 ～Reading～

※取扱注意

R

Part B  
情報検索問題

英語の広告や案内物などを模した題材から必要な情報を検索

CEFR:A2



**Redmont City Gardening Festival**  
Monday, May 4 - Sunday, May 10

**Event Information**

Day	Event (Title of speech)	Speaker	Place
Monday	Growing Potatoes	Mr. Brown	Brown's Farm
Tuesday	Growing Cabbages	Ms. Miller	Watson's Field
Wednesday	Growing Tomatoes	Mr. Carter	Campbell's Farm
Thursday	Growing Pumpkins	Ms. Miller	Central Park
Friday	Growing Cucumbers	Mr. Watson	Nelson's Farm

\*On Saturday and Sunday, the local market will sell all items shown at the festival including this season's best tomatoes.



For details, call 123-555-1450.

15 What day can you hear a speech about tomatoes?

- [A] On Monday.  
[B] On Wednesday.  
[C] On Friday.  
[D] On Saturday.

正答

B

16 Where can you hear Ms. Miller's speech on Thursday?

- [A] At Brown's Farm.  
[B] At Watson's Field.  
[C] At Campbell's Farm.  
[D] At Central Park.

正答

D

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

## 出題の趣旨

与えられた英文の題材に対して、短時間で必要な情報を引き出す力（情報検索力）を測定する問題。

## 問題の特徴 ～Reading～

※取扱注意

R

Part C  
要点理解問題

フィクション／人文系論説文から、情報や考え方などの要点をとらえる

CEFR:A2

Mr. Norton, the third grade science teacher, coaches the baseball team and plays the piano at school shows. After the last day of school, he's going to go to a country in Africa for a year to help build a school there.

His students want to get him a present, so they have collected a hundred dollars. Two of the students, Ken and Mary, are in charge of choosing the present.

"We have so much money," says Mary. "What should we get him?"

"Nothing heavy," says Ken. "Why don't the two of us make a calendar? We can use photos of Mr. Norton and the students for each month."

Mary says, "Great idea! I'll ask everyone to write a few words for him on the calendar."

"It won't cost much, so what should we do with the rest of the money?" asks Ken.

Mary answers, "Let's use it to buy books for the school in Africa."

"Sounds nice," says Ken. "Actually, I'm worried about the calendar. Will it be finished in time for his goodbye party?"

Mary answers, "No problem, it's three weeks away. I know I'll miss his lessons, but I can't wait for the party. It'll be fun!"

21 Why is Mr. Norton going to Africa?

[A] To coach baseball at a school.

[B] To help build a school.

[C] To play the piano at a school.

[D] To teach science at a school.

正答

B

※実際は質問が4つあります。

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation  
「GTEC for STUDENTS」

## 出題の趣旨

まとまった量の英文に対して、英文の主旨に関する内容や詳細部分の要点について、英文を理解し、必要な情報を読み取る力を測定する問題。

## 問題の特徴 ～Listening～

※取扱注意

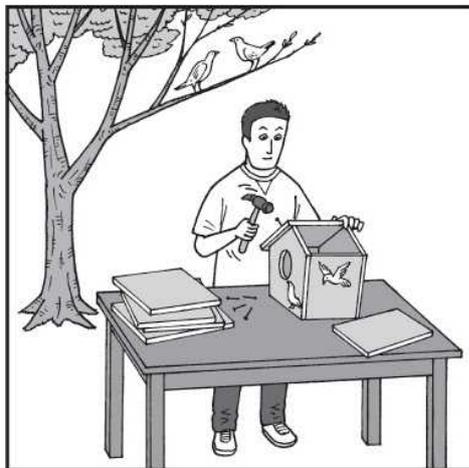
L

Part A  
イラスト説明問題

3つの英文を聞き取り、与えられたイラストを説明しているものを選択

CEFR:A1

1



正答

A

&lt;スクリプト&gt;

F:

[A] A man is building a house for birds.

[B] A man is making a table outside.

[C] A man is putting some wood next to a tree.

[A]

[B]

[C]

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

## 出題の趣旨

イラストなど与えられた視覚的情報をもとに、ある状況や場面、事物を描写説明した単文レベルの英文を正しく聞き分ける力を測定する問題。

## 問題の特徴 ～Listening～

※取扱注意

L

### Part C 課題解決問題

視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題を解決

CEFR:A2

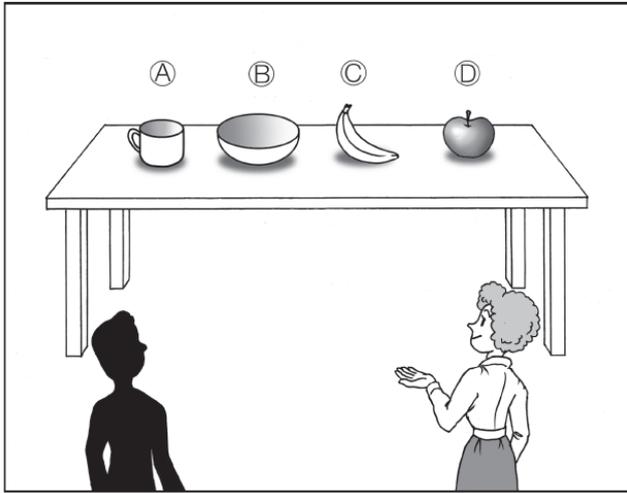
あなたはアメリカにホームステイ中です。今日の美術の授業で描くものについて、先生と相談しています。まず、先生からあなたに話しかけます。

あなたは今日、何の絵を描くか。

- [A] Ⓐ
- [B] Ⓑ
- [C] Ⓒ
- [D] Ⓓ

正答

D



<スクリプト>

F: Yesterday, you drew a picture of a cup and a bowl.  
Today, you'll draw an apple.  
M: OK. Can I draw a banana, too?  
F: Not today. You can draw a banana tomorrow.  
M: All right.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### 出題の趣旨

日本語で事前に与えられる状況設定および視覚的情報と音声情報から、その場面で求められている課題（タスク）を解決する力を測定する問題。

## 問題の特徴 ～Writing～

※取扱注意

W

### Part A

文脈をとらえ、場面に応じた適切な応答を表現する

CEFR:A1~2

次の対話文(1)、(2)の( )に合う適切な英文を作成し、自然な会話を完成させなさい。ただし、英文は主語と動詞を含んだ文にすること。時間は2問あわせて5分です。

(1) あなたは友だちのAnnaと映画館へ向かって歩いています。

Anna: What time is it now?

You: ( 1 )

Anna: Well, the movie starts at five thirty.

You: We should walk faster. We only have thirty minutes left!

(2) あなたは自分でつくったサンドイッチを自宅で友だちのRobertと一緒に食べています。

Robert: This sandwich looks great!

You: Thank you. ( 2 )

Robert: Yes, please. What do you have?

You: We have milk and orange juice.

Robert: Milk, please.

<解答例>

1. It's five o'clock.

2. Would you like something to drink?

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

#### 出題の趣旨

対話文中の空所に当てはまる応答を前後の文脈から判断し、適切な英語を用いて表現する力を測定する問題。

## 問題の特徴 ~Writing~

※取扱注意

### W Part B 意見展開問題 個人の経験や他の事例をもとに、自分の意見と理由を述べる

CEFR:A2

あなたは授業中に、下記のテーマで英語の作文を提出することになりました。

作文のテーマ：

あなたが1年のうちで最も好きな月は何月ですか。1つ取り上げて、なぜそう思うか、その理由を書きなさい。

〔※下のイラストは具体的に例を挙げるときの参考です。  
イラストの内容を描写しても、あなた自身の経験を書いてかまいません。〕

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

<参考>



### 出題の趣旨

与えられたテーマに対して自分の考えを表現する問題を自由記述形式で出題。限られた時間の中で自分の意見を説得力を持って表現する力を測定。

## 問題の特徴 ~Speaking~

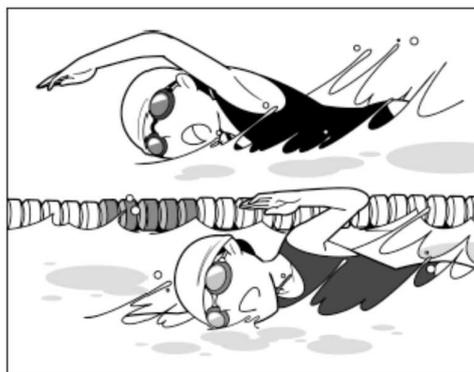
※取扱注意

### S Part B 質疑応答問題 イラストに関する質問に対して、即座にかつ適切に解答する

CEFR:A1

Question No.1

Picture A



<試験官スクリプト>

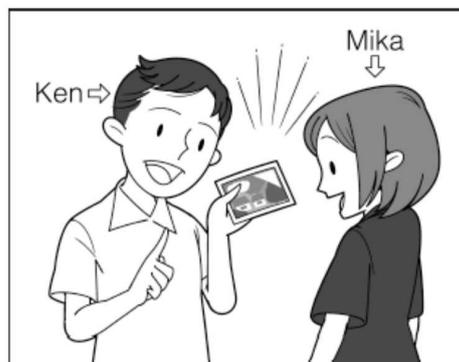
Please look at Picture A.  
What are the girls doing?

<解答例>

They're swimming in a pool.

Question No.2

Picture B



<試験官スクリプト>

Please look at Picture B.  
What is Ken doing?

<解答例>

He's showing a picture to a girl.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

### 出題の趣旨

質問に対して、即興的にイラストを説明する力を測定する問題。質問に対して適切な応答となっているか、適切な文法・表現を用いているかが問われる。

## 問題の特徴 ～Speaking～

※取扱注意

S

Part B  
質疑応答問題

個人の経験をもとに、質問に対して即座にかつ適切に解答する

CEFR:A1~2

&lt;試験官スクリプト&gt;

**Question No.3:** *Which do you like better, dogs or cats?*  
 (生徒が解答します。生徒の解答の後、重ねて質問してください。)  
*Why?*

&lt;解答例&gt;

I like dogs because I can play games with them.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

## 出題の趣旨

受験者が見聞きしたり、経験したことに基づいて、質問に即興的に応答する力を測定する問題。質問に対して適切な応答となっているか、適切な文法・表現を用いているかが問われる。

## 問題の特徴 ～Speaking～

※取扱注意

S

Part C  
意見陳述問題

与えられたトピックに対して、個人の考えや経験に基づいて考えを述べる

CEFR:A2

Topic: Your best way to enjoy weekends

&lt;試験官スクリプト&gt;

*Please tell me your best way to enjoy weekends. Why?*  
*You will have one minute to think about your answer.*  
*Then, you will have one minute to speak.*  
 (試験官が準備時間60秒を測定します。60秒後に解答開始の指示を出します。)

<60 seconds>  
*Now, please begin.*

&lt;解答例&gt;

On weekends, I usually enjoy playing soccer with my friends. I am very happy when my team wins because we can celebrate together.

※ Copyright © 2015 Benesse Corporation 「GTEC for STUDENTS」

## 出題の趣旨

与えられたトピックに対して、ある程度の準備をした上で、個人の考えや経験に基づいて考えを述べる力を測定する。分かりやすい論理展開を伴っているか、適切な文法・表現を用いているかが問われる。

## 【スピーキング事前研修】

事前に送付するスピーキングテスト研修用DVDと冊子を活用し、研修を受けた状態で教員が面接試験を実施する。

### 【研修の目的】

実施環境の設定、出題内容、評価方法、評価基準について理解することを目的とする。DVDに収録されている「トライアル採点課題セット」に取り組み、内容理解度を確認する。

### 【研修の内容】

項目	目的	内容
テスト実施の流れ	スピーキングテストの実施の流れ（事前準備～実施～採点）を把握する。	テスト実施全体の流れ 事前準備 テスト実施 採点結果記入
採点について	採点観点と基準、応答例・採点法、採点基準ごとの回答例を把握する。	採点観点と基準 応答例・採点 各得点における回答例 ・ Part A（音読） ・ Part B（即興を前提とするやりとり） ・ Part C（ある程度の準備をした上で話すこと）
トライアル採点課題セット	トライアル採点を行い、理解度を確認する。	トライアル採点課題セットの活用について 5名分の応答例

## 【テスト実施の全体の流れ】

### 1. 事前準備

- テスト構成、採点換点・採点基準を確認する
- 問題用紙、エントリーカードなどの準備を行う
- 受験者に事前に注意事項を伝達する
- 試験会場の設営を行う

### 2. テスト実施

- 入室 → 本人確認 → 質疑応答 → 退室

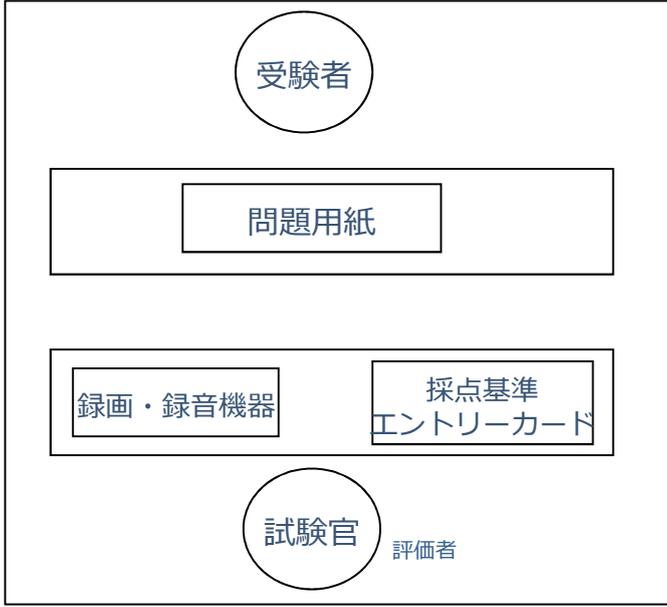
### 3. 採点結果記入

- エントリーカード（採点結果の記入欄）に採点結果を記入する
- エントリーカードに記入漏れがないかを確認する

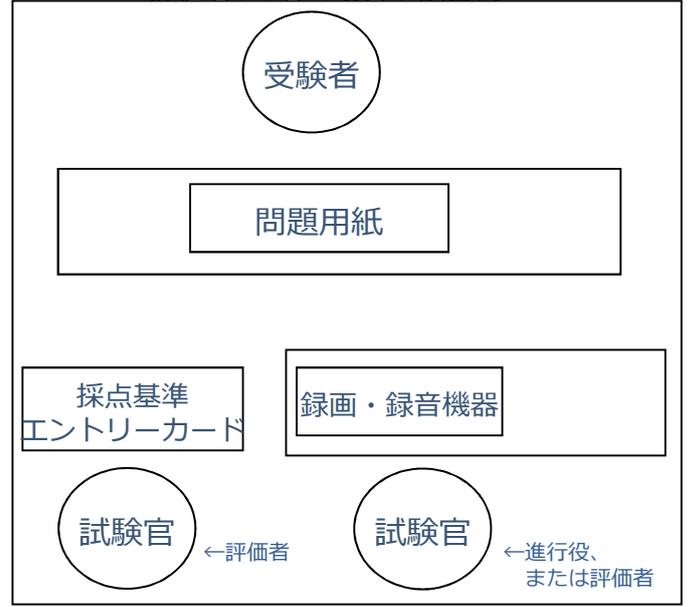
\* 英語担当教員は、担当する生徒以外の生徒のスピーキング評価を行うこととしている（1クラスの場合は除く）。

## 【試験会場の設営】

評価者が1名の場合の設営例



評価者が2名の場合の設営例



## 【スピーキング採点基準】

	Part A：音読	Part B：即興を前提とするやりとり		Part C：ある程度の準備をした上で話すこと	
	音読の評価	内容の評価	文法、表現の評価	内容、構成の評価	文法、表現の評価
3点		相手の発話に対応した適切な内容で、すべてに回答できている。	適切に回答できていて、適切な文法や表現を用いて話している。誤りがあっても理解には影響しない。	与えられた質問に対応した内容となっていて、論理展開がわかりやすい構成となっている。	自分の言葉で十数語以上は話して、適切な文法や表現を用いている。誤りがあっても理解には影響しない。
2点	明瞭で自然な発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	相手の発話に対応した適切な内容で、おおよそ回答できている。	ほぼ適切に回答できていて、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。	与えられた質問に対応した内容となっていて、単純な要素を関連づけて述べている。	自分の言葉で十数語以上は話して、文法や表現に誤りは出てくるが、伝えたい内容はわかる。
1点	母語アクセントが残っていたり、発音ミスも時にあるが、聞き手がある程度理解できる発音、リズム、イントネーション、速度、声の大きさを話している。	相手の発話に対応した適切な内容で回答できているのは半分以下である。	時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。	与えられた質問に対応した内容となっているが、単純な要素を並べ立てている。	自分の言葉で十数語以上は話して、時制の誤りなど基本的なミスが繰り返し出てくるが、平易な表現は正しく使えていて、伝えたい内容はだいたいわかる。
0点	適切に発音できる内容は限定的で、聞き手が理解するのに困難が伴う。	相手の発話に対応した適切な内容でほとんど回答できない。	使える文法や表現は限定的である、あるいは、適切な内容でほとんど回答することができない。	与えられた質問に対応した内容になっていない、あるいは内容が量的にほとんどないか断片的である。	使える文法や表現は限定的である、あるいは自分の言葉で話せた内容が十数語に満たない。

## 【ライティング採点体制】

答案をスキャンデータで海外採点会場へ送り、海外専任スタッフが採点を行う。  
採点監督者、採点チームリーダー、採点者の体制（※人数については受験人数・時期に対応して増員）で採点を実施。  
組織内ではより確実な採点を行うため、同じ答案を2名の採点者が担当する。

\* 採点監督者および採点者には、2ヶ月間の事前研修を実施。

## 【採点基準】

### ■ 1.空所補充英作文問題

	0	1
内容	英文が書かれていなかったり、文脈から外れたことを書いている。	文法上の誤りがほぼ見られず、ほぼ正しく、内容を伝えることができている。

### ■ 2.意見展開問題

		0	1	2	3	4
内容（意見）	課題に対する自分の意見や立場を伝えることができている。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	自分の言いたいことを伝える語彙を適切に選ぶことができなかつたり、使い方に誤りが見られたりするため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な語彙を文脈に合わせて適切に選ぶことができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
	自分の意見や立場をサポートする理由や具体例などを伝えることができている。	英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られるため、伝えたい内容を理解できないところが多くある。	理解が困難となるような文法上の誤りが見られることがあるため、考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	様々な文のパターンを用いることができている。また、使い方もほぼ正しく、十分に考えを伝えることができている。	豊富で多様な文のパターンを用いることができている。また、使い方も正しく、効果的に考えを伝えることができている。
内容（理由）		英文が書かれていなかったり、出題のテーマから外れたことを書いている。	文と文とのつながりが悪かつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して伝えたい内容を理解できないところが多くある。	文と文とのつながりがよくなかつたり、言いたいことがうまくまとまっていなかつたりするため、読み手が混乱して考えが十分に伝わらないところが部分的にある。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れもほぼ自然で、十分に考えを伝えることができている。	文と文とのつながりがよく、文章全体の流れが自然で一貫しており、考えを明確に伝えることができている。